

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-137	A-610	24-101
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之		
題名 (原題/訳)		
Association Between Alcohol Consumption and the Risk of Incident Chronic Kidney Disease: A Korean Nationwide Study of Community-Dwelling Older Adults アルコール摂取と慢性腎臓病発症リスクの関連性：韓国における地域在住高齢者を対象とした全国調査		
執筆者		
Sun IO, Lee HS, Lim C, Bae E, Hyun YY, Chung S, Kwon SH, Cho JH, Yoo KD, Park WY, Kim H, Yu BC, Ko GJ, Yang JW, Hwang WM, Song SH, Shin SJ, Hong YA.		
掲載誌		
Nutrients. 2025 Mar 11;17(6):983. doi: 10.3390/nu17060983		
キーワード		PMID
高齢者、アルコール飲料、慢性腎臓病、糸球体濾過率、性別		40290011
要 旨		
<p>背景：本研究では、地域在住の高齢者におけるアルコール摂取が慢性腎臓病（CKD）リスクに及ぼす影響を調査した。</p> <p>方法：NHIS-Senior コホートデータ（2009～2018年）を用いて全国規模の後ろ向き観察研究を実施した。推定糸球体濾過率（eGFR）が 60 mL/分/1.73 m²以上の65歳以上の成人を対象とした。アルコール摂取は、非飲酒、軽度、中等度、重度の飲酒に分類した。CKD発症は eGFR < 60 mL/分/1.73 m²と定義した。</p> <p>結果：122,319人のうち、非飲酒群、軽度飲酒群、中等度飲酒群、重度飲酒群はそれぞれ99,091人（81.0%）、14,842人（12.1%）、4,257人（3.5%）、4,139人（3.4%）であった。追跡調査期間中、非飲酒群、軽度飲酒群、中等度飲酒群、重度飲酒群でそれぞれ19,796人（20.0%）、4,636人（31.2%）、1,696人（39.8%）、1,695人（41.0%）がCKDを発症した。Cox回帰分析では、CKD発症のハザード比（HR）は、非飲酒群に対して、軽度飲酒群で0.90（95%信頼区間[CI] 0.87-0.94、<i>p</i> < 0.001）、中等度飲酒群で0.89（95%信頼区間[CI] 0.84-0.95、<i>p</i> < 0.001）、重度飲酒群で0.93（95%信頼区間[CI] 0.88-0.99、<i>p</i> = 0.027）であった。サブグループ解析では、アルコール摂取がCKD発症に対して予防的であったのは、男性では65～74歳の中等度飲酒者、男性では75歳以上の軽度飲酒者、女性では85歳未満の軽度飲酒者においてであった。</p> <p>結論：本研究は、高齢者、特に男性において、アルコール摂取がCKD発症リスクと負の相関関係にあることを示している。</p>		